

琵琶湖上の作(室鳩巢)

琵琶湖上水空に連る

万里虚無目撃の中

疊波天を函して迭いに高下し

群山地を分つて各西東

孤村の遠樹 凶画 迷い

百尺の長橋 彩虹 飛ぶ

独り覚ゆ 芳洲の逸興を 生ずるを

知らず 此の意 幾人か 同じき

琵琶湖上水連空 萬里虚無目撃中
疊波涵天迭高下 群山分地各西東
孤村遠樹迷圖畫 百尺長橋飛彩虹
濁覺芳洲生逸興 不知此意幾人同

解説 琵琶湖上に遊んで、湖上の景を詠んだもの。

語釈 ※琵琶湖、滋賀県にある日本最大の面積と貯水量を持つ湖。

※虚無、茫々として一物も無きさま。※目撃、実際にはつきり見る。

※疊波、折り重なって押し寄せる波。※迭、たがいに、かわるがわる。

※群山、むらがり聳える山。※孤村、人里離れた村。※遠樹、遠方に望まれる樹々。※彩虹、美しい色どりの虹。※芳洲、香草の花の咲く汀州。

※逸興、世俗を超越して秀れた風流の趣。

通釈 琵琶湖の水は遠く天に連なり、茫々と果てない万里の広さが目に映る。ただ波が遙か彼方から押し寄せ、重なり合つて天をも揺がすばかり。周囲の山々は一国を二分して東西に連なり、かすかに望まれる樹々に包まれた一村はまさに絵のように美しく、一方、瀬田の唐橋は色鮮やかな虹が中天にかかっているかと思うようである。独り、舟に乗って琵琶湖に遊び、杜若などが香ばしくにおう芳洲にいと、風流文雅の楽しみは尽きるともなくわいてくる。だが、このわが心を解し得る人が他にいないことであろうか。